

令和6年度 自己評価・施設関係者評価報告書

北見福祉会は、夕陽ヶ丘認定こども園・光西認定こども園・みなみ認定こども園の教育・保育目標や計画等をはじめとする運営について、自己点検と評価、公開保育の実施、施設関係者評価委員会での評価を行った後、「令和6年度自己評価・施設関係者評価報告書」を作成しました。

今後は、自己評価に基づく改善に努めるとともに、各評価委員から頂きました貴重なご意見をさらなる教育・保育に生かしていけるよう職員一丸となって努力してまいります。

関係者の皆様には、今後ともご支援とご指導を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

なお、この報告書は、各こども園内での閲覧と本会ホームページに公表予定です。

令和7(2024)年6月20日

社会福祉法人北見福祉会理事長 大江 學
夕陽ヶ丘認定こども園園長 杉浦 潤
光西認定こども園園長 佐藤 亮
みなみ認定こども園園長 徳増 秀隆



1. 自己評価・施設関係者評価の目的について

- 自己評価は、各こども園が自らの教育・保育活動やその他園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、こども園として組織的・継続的な改善を図る目的に毎年、3月に全職員により実施する。
- 施設関係者評価は、各こども園が実施した自己評価をもとに、毎年4～5月頃に関係者による評価を実施し、その結果をホームページ等にて公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、保護や地域住民等から理解と参画を得て、こども園・家庭・地域の連携協力によるこども園運営を進めることを目的としている。

2. 北見福祉会の基本理念について

- 児童憲章に則り、心身の発達を助長し、望ましい人間関係の育成を目指します。
- 子どもの人権や主体性を尊重し、乳幼児の最善の利益が守られるよう、こども園と保護者や地域の方々との強い連携のもとに児童福祉の増進を図ります。
- 社会福祉法人としてあるべき姿を追求し、地域に必要とされる法人を目指します。

3. 北見福祉会の中期事業計画について（関係分抜粋）

（1）法人運営の安定化に向けて

社会福祉制度改革に伴う法人機能の充実と、将来にわたって安定した法人運営を続けていくために、役員会議、理事会、評議員会等の役割が確実に果たせるよう体制強化に努めます。

（2）財政基盤の長期確立に向けて

社会福祉法人としての財政基盤の充実・強化を図るため、適正な資金運用に努めると共に、運営費等により安定した収入確保に努めます。また、各種積立金（人件費、修繕等、備品等購入、施設整備等）については、「積立金5ヶ年計画」に基づき長期的な財政基盤の安定化を図ります。

（3）地域貢献活動について

各こども園が地域福祉に資するよう、地域の諸活動や交流事業に積極的に取り組み、地域の方々から信頼される北見福祉会及び各こども園を目指します。

4. 評価項目と着眼点について

評価項目（評価の着眼点）	
①理念等	社会福祉法人としての「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。
②経営状況	法人の経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。
③指導目標	<p>指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。</p> <p>○毎月、各担任を中心に「月ごとの指導計画」を作成しているか。</p> <p>○年度末に、各担任を中心に反省・検討を行い、次年度の「全体指導計画」作成に活かしているか。</p> <p>○それらの指導計画をその後の教育・保育に活かしているか。</p> <p>※「全体指導計画」とは、1年間を通してのこども園の運営をまとめた計画書である。</p> <p>※「月ごとの指導計画」とは、園児の発達状況を考慮し、月ごとに各担任が中心となり作成する教育・保育の計画書である。</p>
④人権尊重	<p>子ども一人ひとりに寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。</p> <p>○子ども一人ひとりの発達段階によるが、上手に自分の気持ちを言葉や表現で伝えたりすることができない場合も多々ある。その際に、その気持ちを汲み取って理解したり、仲立ちになってあげたりする配慮ができていますか。</p>
	<p>子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。</p> <p>○子どもへの体罰や虐待、乱暴な言葉遣いが無いように気を付けているか。</p> <p>○子どもの気持ちをしっかり聞き入れて対応しているか。</p>
⑤園行事	<p>指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。</p> <p>○全体指導計画にある“各行事のねらい”（入園式・運動会・発表会・卒園式など）をその都度確認しながら、ねらいの達成に向けて努力しているか。</p>
⑥発達援助	<p>子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている。</p> <p>○子どもの家庭状況や個性を含め、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、発達援助を進めているか。</p>
	<p>子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。</p> <p>○子ども一人ひとりの言葉や表情・行動から、その子の気持ちを汲みとり、丁寧に発達援助を進めているか。</p>
	<p>基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。</p> <p>○子どもの個性や各家庭によって、子どもの基本的な生活習慣の確立に違いがある。保護者の考え方もそれぞれである。生活習慣の確立には、保護者と常に連絡を取り合いながら、お互いに協力し合い対応できているか。</p>
⑦教育・保育内容	<p>年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。</p> <p>○子どもの発達段階により、興味・関心を持つ遊びはそれぞれである。色々な遊びを工夫して提示し、興味を持たせるように努力しているか。</p>
	<p>身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。</p> <p>○園庭活動やお散歩時等における、四季折々の自然に興味を持たせる工夫（言葉かけや遊び）があるか。また、植物や虫、野菜等、一緒に育てたり制作活動の素材として活用したりする工夫があるか。</p>
	<p>身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。</p> <p>○こども園には、発達段階に応じた様々な遊びがある。（乳児ではハイハイをしながら小さな坂を上ったり下りたり、年齢が上がると縄跳びや鉄棒、プール等）。素足生活を推進し、様々な遊びを取り入れながら丈夫な体の育成に努力しているか。</p>
	<p>様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。</p> <p>○自然物をはじめ、紙・粘土・綿・紙コップ・割りばし・ペットボトル・自分の手や足 … クレヨン・絵具 … 様々な素材を活用し、自由に表現を楽しめるよう工夫、配慮しているか。</p>

評価項目（評価の着眼点）	
⑧保育環境	<p>保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。</p> <p>○室内では、棚の角や段差、画鋲や釘、床や木材物のささくれなど、危険個所の把握、また、ハサミや教具等の整理整頓がなされているか。屋外では、建築物や遊具の破損、樹木や雑草等様々な危険物を即座に判断し、園長・副園長に報告したり、排除・修理するように努めているか。</p>
	<p>保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。</p> <p>○常に教育・保育環境の衛生を保つために、職員で分担して様々な物品の消毒・洗浄やトイレを含む各部屋の清掃・消毒作業等を毎日、若しくは定期的に実施し、子どもを感染症等から守る配慮をしているか。</p>
⑨給食・食育等	<p>楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。</p> <p>○発達段階や個人差、アレルギー等に応じて、食事のスピードや食べ方に違いがある。その子に合った食事介助が必要であり、無理やり食べさせたりしてはいけない。楽しみながら食事ができるように、個人差に応じた食事介助ができていますか。</p>
	<p>給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。</p> <p>○毎日の給食の食材やメニューに関心が持てるような配慮をしているか。また、畑などで自分達が育てた収穫物を調理したり食べたりすることによって、食への関心を高めるよう努力しているか。</p>
	<p>各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。</p> <p>○こども園の様々な行事に合わせたメニューを提供することによって、食への関心を高めるよう努力しているか。</p>
⑩障がい保育	<p>保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。</p> <p>○支援を必要とする子（気になる子）に対する理解を深めるため、必要により、市の関係各課や児童相談所、病院等と連携を図り、指導・助言を受けられるよう配慮をしているか。</p>
	<p>個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。</p> <p>○支援を必要とする子の割合は年々増加している。保育教諭の専門研修を通し、その理解を深めるとともに、指導方法を共有して、教育・保育を実践しているか。</p>
⑪健康と安全	<p>避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。</p>
	<p>子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。</p> <p>○子どもは、自分から「体調が悪い」等の表現ができないことが多い。健康状態を保護者等から聞いて把握することは必須である。その上で、子どもの様子から体調の変化にいち早く気付き、適切な対処ができるよう常に心掛けているか。</p>
	<p>食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。</p> <p>○こども園で一番事故が多いのが、午睡中と食事中である。園のマニュアルに従い、事故防止におき適切に介助・観察をしているか。例～午睡中はうつ伏せにせず、仰向けが基本など。</p>
⑫保護者支援	<p>朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。</p> <p>○送迎のための来園では保護者と話をする機会が多い、その機会を利用したり、連絡帳や電話等を活用して、家で様子やこども園での様子を伝え合うように努力しているか。また、掲示板等により、こども園での様子を伝えているか。</p>
	<p>参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。</p> <p>○参観日やクラス懇談会などで資料等も提示し、こども園の教育・保育について、保護者と共通理解を得るよう努力しているか。</p>
⑬地域連携	<p>地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保に努めている。</p> <p>○小学校との引き継ぎ、中学校の職場体験等による園訪問を含め、近隣の小・中学校との交流や、介護施設等、保護者や祖父母との交流機会を確保しているか。</p>
	<p>必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。</p> <p>○支援を必要とする子の対応を含め、市の関係各課や関係する小学校等との連携を図っているか。</p>

令和6年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価、公開保育での評価、施設関係者による評価の結果について、下記のとおり公表いたします。
この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

〈令和7年5月30日 幼保連携型 夕陽ヶ丘認定こども園〉

- 開催日時 令和7年5月19日(月) 18:00~19:00
- 開催場所 夕陽ヶ丘認定こども園 ちゅうりっぴ組保育室
- 評価委員 委員長 吉田憲章(夕陽ヶ丘町内会会長)
副委員長 前岡慎之介(夕陽ヶ丘こども園友の会会長)
委員 河合健哉(社会福祉法人北見福祉会評議員)
- 園説明者 杉浦 潤(園長)、三田サカエ(副園長)、佐藤真弓(指導保育教諭)
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A:大変良い(4点) B:良い(3点) C:一部検討が必要(2点)
D:改善が必要(1点)により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5以下をD」、「1.5~2.4をC」、「2.5~3.4をB」、「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。
- 教育・保育目標について
*体を十分動かし、友達と仲よく遊べる子ども
*自分で考え、のびのび行動のできる子ども
*正しい基本的な生活習慣を身につけ、元気に遊べる子ども



評価項目		評価	評価コメント(取組状況)
理念等	「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○園の「教育・保育目標」は明文化され、周知されてきているが、より一層意識化されるよう、周知の仕方を工夫していく。掲示の仕方を工夫したい。
経営状況	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	○法人・こども園運営を含めて、北見福祉会として中期事業計画を策定して取り進めている。 ○事業計画は毎年、成果と課題を理事会等で協議している。R7年度も課題を明確にし、具体的な取組を進めていく。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	
指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	B	○毎月の職員会議等での協議を基に指導計画を作成している。また、年度末には年間の反省を基に次年度の全体計画を作成しており、それを活用して教育・保育に活かせるよう取り組んでいる。より良い指導計画策定と実践を積み上げ、目標に向かえるよう努力していく。
人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	A	○子どもの人権を尊重した、子どもに寄り添った教育・保育を進めている。 ○保育の不適切な指導がニュースになる。研修会や職員会議等で人権尊重の啓発を図っている。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。	A	
園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	B	○「新型コロナ」は過去の事となりつつあるが、行事の縮小を含めた取組を継続している部分もある。良いものは継続し、状況を見極めながら、各行事の狙いの達成に向けた取組を進めていく。
発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○子ども達の個性は十人十色である。家庭状況や個性を理解し、個々の気持ちを受け止めて教育・保育を進めていきたい。 ○送迎時の保護者との情報交換も毎日意識的に実践している。保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を考慮した教育・保育を展開できるよう、懇談会や参観日等を活用しながら、理解や連携の仕方を工夫していく。
	子どもの言葉(幼児は行動や表情)によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら(朝夕のお話や連絡帳等も含め)、子どもの状況に応じて対応している。	B	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会や職員会議等を通して、質の高い教育・保育を展開できるよう、計画・実践・反省を繰り返し工夫していく。 ○年齢相応のより質の高い教育・保育、子ども達の興味を引き出す教育・保育の実践には、保育教諭等職員一人一人、更にスキルを高める必要がある。積極的な姿勢はもちろん、研修会等を通して個々の実践力の向上を促す。 ○より良い教育・保育には、保育教諭相互の共通理解やチームワークも必要となる。創意工夫していきたい。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	B	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○消毒昨年は「B」「B」の評価であった。向上している。 ○保育教諭等が日常的に安全点検をするとともに、毎月1回は危険箇所が無い現場調査を行っている。園舎も古くなったが、出来る限りの点検・修理等を進めていく。 ○消毒作業は全職員分担で毎日実施している。コロナ後も衛生管理は続けていく予定である。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	A	
食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階や個人差、アレルギー等に応じて、楽しく食事ができるよう意識的な介助に努めており、子ども達も食事を楽しんでいる。 ○園の菜園で収穫した野菜を子ども達が喜んで食べられるように、一層工夫して取り組んでいく。 ○給食調理員と保育教諭が相談して、園行事に合ったメニューを提供できるよう努めている。行事とメニューの関係が子ども達が知り、喜んで食べている様子も覗える。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	B	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	A	
障がい保育	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要と見込まれる子ども達には、保護者の理解のもと市子ども総合支援センターと繋がり、助言を受けることもある。 ○今後ますます大切になってくる分野である。研修会等を通して、支援が必要な子ども達への指導のあり方を学び、園として共通理解のもと教育・保育を進めていく。
	個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。	B	
健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練は年間計画に基づき毎月実施している。（消防参加も年2回実施） ○交通安全推進員による交通安全教室を行った上で、お散歩の際に子ども達と安全な歩き方や交通ルールについて確認している。今後も継続する。 ○子どもの体調変化には職員による検温を含め、体調不良や微熱等の症状を素早く察知し、適切に対応できるよう努めている。食事時の事故防止については、日常的に留意し、マニュアルにそった介助に努めている。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	A	
保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者支援は、園の重要な役割の一つであり、送迎時の情報交換を含め、意識して取り組んでいる。保護者の悩み・苦しみ傾聴し支援できるよう、今後も研修会などを通して保育教諭個々のスキルアップを図っていく。 ○参観日や懇談会、個別面談も活用し、保護者の悩み・苦しみに傾聴し支援できるよう、機会を作っていく。研修会などを通してスキルアップを図る。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保につとめている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ対応により地域との交流が減少していたが、ほぼ以前のような交流が復活してきた。R7年度は、近隣の小学校等との連携を進めていきたい。（架け橋プログラム） ○子ども総合支援センターや保育課等の関係機関とは、必要に応じて、連携をとりあっていきたい。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	B	

<自己評価の結果に関するご意見・ご質問>

○懇談会・参観日等を通して、先生方の気遣いが大変素晴らしい。園児への不適切な対応がニュースになることがあるが、まったく気にならない。

○人権尊重の部分は、仕事柄、対先生方への苦情が多くなってきていることを実感している。

⇒園としても、大変気を遣っている部分である。園児一人一人の個性を理解し、保護者の考えを理解し、共感をもって対応していきたい。

○高栄小学校校区の「きすな」は、保育園・小学校・中学校と繋がっていく。良い取組だと考えている。

○教育・保育の項目がすべてBとなっている。自分に厳しい先生方が多い。それが信頼関係に繋がっていると思う。

⇒現状で満足しているより、より良い教育保育を目指すための向上心ととることができる。改善していく部分もあり、今後の先生方の向上心、積極的な活動に期待している。

○障がい教育（保育）は、学校でも一クラス分の人数が在籍する状況である。特別支援に不安を持つ保護者も多い。園に在籍しているのうちから、特別支援は「特性に合わせた教育」がなされる場所であることを、丁寧に説明することが大切になる。

⇒承知しました。丁寧に対応していきたい。

<公開保育の結果に関するご意見・ご質問>

○公開保育の際、身体を使った「リズム運動」を見させてもらった。スポーツ指導の経験があるので、小さいころから鍛えていると、将来のためにも有益だと感じる。大きなケガも防ぐことができる。また、はだし教育も土踏ますの成長を促す。リズム運動の中で、足の指先まで気を遣った動きや指導に、一貫性を感じた。

○普段から保育状況を見ているが、しっかり訓練され、上手に鍛えてもらっている。たくましい脚になってきた。

○公開保育について、園長より「普段のままの様子を見てもらう」という説明があった。大切な考え方である。そのうえで参観者より意見をいただく。

⇒緊公開保育の時だけ特別なことをする、という考えはない。普段の様子を見ていただき、保育教諭や園児の動きで感じたことに対して、率直なご意見をいただきたいと考えている。これからもその形を続けていきたい。

○北海道、北見市の体力運動能力テストの値は低い。車社会であることが不足していることも要因の一つと考える。外遊びやお散歩に力を入れている教育・保育は、良い取り組みと考える。

⇒体力向上も勿論であるが、外遊びやお散歩をする中で、社会性や安全意識を成長させる狙いもある。リズム運動を含め、外遊びやお散歩は今後もより推進していきたい。



令和6年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価、公開保育での評価、施設関係者による評価の結果について、下記のとおり公表いたします。
この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

＜令和7年5月30日 幼保連携型 光西認定こども園＞

- 開催日時 令和7年5月14日（水）18：30～19：30
- 開催場所 光西認定こども園 2階会議室
- 評価委員 委員長 重井 睦（社会福祉法人北見福祉会評議員）
副委員長 谷口文敏（西富町内会副会長）
委員 山崎俊輔（光西こども園PTA会長）
- 園説明者 佐藤 亮（園長）、古屋郁代（副園長）、橋本真由美（指導保育教諭）
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A：大変良い（4点） B：良い（3点） C：一部検討が必要（2点）
D：改善が必要（1点）により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5以下をD」、「1.5～2.4をC」、「2.5～3.4をB」、
「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。
- 教育・保育目標
*感性豊かで、身体の丈夫な子ども
*友達といっぱい遊び、仲間を大切にできる子ども



評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
理念等	「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○法人としての理念や、園の「教育・保育目標」は明文化され、ある程度の評価をされているが、より一層意識化できるよう周知の仕方等、工夫していく。
経営状況	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	○法人・こども園運営を含めて、北見福祉会として中期事業計画を策定して取り進めている。 ○事業計画は毎年、成果と課題を理事会等で協議している。評価・反省を基に課題を明確にし、具体的な対応を進めていく。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	
指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	B	○毎月、園内で反省し、それを基に次月の指導計画に反映するよう取組、年度末には、年間の反省を基に指導計画全般の見直しを図ることができた。より教育・保育に活かすよう、PDCAを確立し、より良い指導計画の検証と一つ一つの実践を積み上げていきたい。
人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	B	○子どもに寄り添った言葉かけや接し方等の教育・保育を重点としているが、個々の対応が難しい場面もあった。 ○今後も職員間での確認や研修、職員会議等を活用して、人格を無視するような言動がないように、園全体で取組を進めていく。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。	A	
園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	B	○各種行事を従来通りの形に戻し実施してきたが、行事に向けての共通理解や準備、達成感等、十分なものとはならなかった。今後も状況を見極め、各種行事のねらいの達成に向けた取組を進めていく。
発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○子ども一人一人、個に応じた教育・保育を進めるよう、日頃から職員へ働きかけをしている。 ○送迎時の保護者との情報交換や連絡帳の活用、子ども達との直接的なふれあい等を通して、子ども理解を意識的に実践してきた成果が出ていると考える。今後も多様な考えをもつ保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を配慮した教育・保育を展開できるよう、一層の理解や連携の仕方を研修会等を通して工夫していく。
	子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。	B	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	B	○年齢相応のより質の高い教育・保育、子ども達の興味を引き出す教育・保育の実践には、まだまだスキルを高める必要があると感じている保育教諭が多い中、本園で初めての公開保育を実施し、外部の方に観ていただくことができたことは大変刺激になった。参観者の指摘事項等を反省・改善しながら、今後の指導・保育に役立てたい。 ○子どもの興味のある事だけでなく、職員のニーズに合った研修会等を通して、職員の自己肯定感を高め質の高い教育・保育を展開できるよう工夫していく。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	B	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	○月に1回、職員が担当箇所を危険が無い点検している他、日常的に安全確認をするように心掛けている。 ○消毒作業は、引き続き用務員を含めて毎日実施している。今後も感染症対策として継続していく予定である。よりよい保育環境の維持に努めていく。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	A	
食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	B	○発達段階や個人差に応じて、楽しく食事ができるように努めている。 ○3・4・5歳児を対象とした栄養士の方による「食のおはなし」や5歳児の給食食材の分類、また、園の畑での活動は、子ども達の食育につながるものとする。但し、畑の維持・管理等、各クラスの対応だけでは難しく十分な取組とはなっていない。 ○給食担当者は、保育教諭と相談しながら行事に合わせたメニューを提供するよう努めている。今後は、行事とメニューのつながりを子ども達が知り、より喜んで食べられる環境をつくっていく。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	B	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	B	
障がい保育	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	B	○保護者との共通認識に立った保育・指導に努めている。個々の特性に応じた対応ができるよう、より一層の諸機関との連携を進める必要がある。 ○子ども理解や連携の仕方を研修会等を通して学び、園全体として共通理解のもと教育・保育を進める。
	個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。	B	
健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	○避難訓練は年間計画に基づいて毎月実施している。警察署員による交通安全指導は、3歳以上児で実施した。併せて、日常にお散歩時等、子ども達と安全な歩き方や交通ルールについて確認している。 ○子どもの体調変化にはどの職員も意識化されており、少しでも体調不良や微熱等の症状があれば、迅速に対応するよう努めている。 ○食事中やアレルギー食等の事故防止は、日頃から注意・指導をし、マニュアルにそって介助しているが、職員全体の共通認識の下、職員間のチェック機能を強化し意識化していきたい。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	A	
保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	A	○子どもの様子をいろいろな場面を通して、保護者に伝えるように努めた。特に、子どもの送迎時の保護者との情報交換や保育ドキュメンテーションの掲示等を含め、意識して取り組んでいる。 ○参観日や懇談会、日常の連絡等を通して保護者の悩み等に傾聴し、信頼関係を築いていけるよう努力している。今後も研修会等を通してスキルアップを図り、保護者の願いをできる範囲で受け入れ、子育てで共通理解を図れるよう配慮していく。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保につとめている。	B	○地域の夏まつりや冬の集い等、状況に合わせて実施し交流を深めた。特に、小学校との連携について、近隣小学校と接続カリキュラムの準備を進めることができた。 ○市の支援センターをはじめとした関係機関とは、一層連携を密にしていきたい。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	B	

全体を通して	<p>○全体的に法人や園としての取組、及び職員の努力により一定程度の結果となっているが、より組織体として向上心をもって園の運営を進めていかなければならないと考える。</p> <p>○教育・保育については、改定した指導計画に沿ったより具体的な実践を心掛け、PDCA によるより質の高い個に応じた対応ができるよう努めていく。</p> <p>○今後ますます重要視される小学校との連携について、状況を見極め教育・保育も含め実施内容や体制等を検討していきたい。</p> <p>○本園で初めての公開保育を実施し、外部の方に参観いただき、様々なご示唆をいただけたことは、成果の一つと考える。</p> <p>○多様な考えをもつ保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を配慮した教育・保育を展開できるよう、今後一層の子ども、また、保護者支援や連携の仕方を研修会等を通して工夫していかなければならない。</p>
--------	---

評価委員からの意見等	<p><自己評価の結果に関するご意見・ご質問></p> <p>○園の取組状況や自己評価・公開保育結果等の説明から、丁寧な指導をされていることが伝わってきた。特に、評価項目の発達援助では、子ども達一人一人に配慮した対応での評価が高かったこと、また、環境整備や健康と安全に関しても避難訓練や交通安全教室等、日常の取組として当たり前になりつつあり、保育教諭・職員の努力と頑張りが見えて素晴らしい。</p> <p>○保育ドキュメンテーションは、保護者支援の面から考えても親が安心できるとてもよい取組と思う。</p> <p>○園の雰囲気や職員の対応等、園全体がウェル・ビーイングで素晴らしい。</p> <p>○子ども達一人一人に応じた対応をしている先生方の努力が素晴らしい。子ども達が満足しながら取り組んでいることが一番である。今後も、取組を継続して行ってほしい。</p> <p>○「自己評価」は、職員自身のこと振り返り評価すると厳しくなるものと思うが、B 評価は先生方の向上心の表れと思う。毎回課題をもって取り組んでいる姿が見て取れる。課題として皆で検討して行ってほしい。</p> <p>○今後に向けて、開かれた園としていろいろと対応していく中、健康・安全面としての熱中症対策や東京の小学校で起こった事件等を踏まえ、防犯意識や対策も同時に検討しておくことが大切と思う。</p> <p>○出生率も低くなっている昨今、園児の確保に向け、このような素晴らしい園の取組や特色等をホームページ以外の PR の仕方を検討するとよい。</p> <p><公開保育の結果に関するご意見・ご質問></p> <p>○児童主体の活動で先生方も最低限の援助としており大変良かったと感ずる。特に、活動しやすい教室、整理された教具、一人一人を大切にされた作品、物の準備、毎日の活動の通信・写真の掲示（廊下掲示板）など、とても素晴らしかった。</p> <p>○裸足、リズム運動等、丈夫な体と心作りの場面、自主的に動く様子、また、指導者の見取りや声かけに感銘を受けた。</p> <p>○日頃からの躰が十分であり、子ども達は理解して行動していた。各クラスの子ども達も楽しそうに歌を歌っていたり、活動を楽しんでいる様子が伝わった。</p> <p>○すべての活動の中で5 領域や 10 の姿に関わるはっきりとしたねらいが見られ、とても素晴らしいと思った。</p> <p>○リズム、制作活動ともにねらいに沿ったものであり、子ども達が楽しく、のびのび活動している様子が伝わった。</p> <p>○制作の題材が普段の活動の延長上にあり、とてもよかった。特に、子ども達が選択できる場面がたくさんあり、自分が作りたいものを形にする楽しさを十分に味わえる活動だと思った。</p> <p>○大切に、確かに育てていただいた子ども達の姿をしっかりと引き継ぎ、よさを伸ばし、さらに成長できるよう小学校でも努めていきたいと考える。</p>
------------	--



令和6年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価、公開保育での評価、施設関係者による評価の結果について、下記のとおり公表いたします。
この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

〈令和7年5月30日 幼保連携型 みなみ認定こども園〉

- 開催日時 令和7年5月8日（木）18:30～19:30
- 開催場所 みなみ認定こども園 病後児室
- 評価委員 委員長 佐藤 寛之 様（みなみこども園父母の会会長）
副委員長 菊野 淳一 様（社会福祉法人北見福祉会評議員）
委員 成中 憲 様（南仲町町内会会長）
- 園説明者 徳増秀隆（園長）、近藤恵美（副園長）、伊藤友美（指導保育教諭）
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A：大変良い（4点） B：良い（3点） C：一部検討が必要（2点）
D：改善が必要（1点）により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5以下をD」、「1.5～2.4をC」、「2.5～3.4をB」、
「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。

6. 教育・保育目標について

- *いきいき遊び 強い心身をもつ子ども
- *他を思いやる 心豊かな子ども
- *自分で考え のびのび行動する子ども



評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
理念等	「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○法人としての理念や、みなみこども園としての「教育・保育目標」は、職員・保護者にわかるように掲示している。園通信「南風」でも常に啓発してきた。
経営状況	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	○法人・こども園運営を含めて、北見福祉会として中期事業計画を策定して取り進めている。 ○事業計画は毎年法人として検討委員会を実施し見直している。成果と課題を理事会等で報告・協議している。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	
指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	B	○毎月指導計画を作成すると共に、年度末には1年間の反省を基に次年度の全体計画を法人として検討・修正している。今年度は、みなみ園での経験が浅い総合職（担任）も複数いて、試行錯誤の部分もあったかもしれない。適切なアドバイスと経験を積むことで、より実のある指導計画の作成につなげていきたい。
人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	A	○子ども一人一人に寄り添う教育・保育をすることが求められる。そこを理解し、子ども達に丁寧に接する意識はあると考えられる。 ○不適切な対応がないよう、研修等を積み上げていくとともに、保育教諭同士の声掛けが重要となる。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視したりするような言動をしないよう、十分配慮している。	A	
園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	B	○特に、経験が浅い総合職においては、行事のたびに大変であったと思う。R7年度においては、お互いに協力しながら、各種行事のねらいの達成に向けた取組を一層進めていく。
発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○子ども一人一人の個性や家庭環境を理解し、保護者とともに子どもの成長を促すことが大切である。クラス及び園内で課題や指導方針を共有し、効果的な発達援助に取り組んでいきたい。 ○丁寧に子どもの話を聞くことがスタートである。 ○基本的な生活習慣の定着は、家庭との連携が重要となる。連絡帳や朝夕の会話で課題を共有し、前向きに取り組んでいくことが大切である。
	子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。	B	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	B	<p>○身体を使った遊びや素材を使った表現活動は、どのクラスも日頃から実践しようと努力している。</p> <p>○リズム運動やお散歩等は、特に毎日の活動に取り入れ、どのクラスも上達が見られる。年齢相応のより質の高い教育・保育、子ども達の興味を引き出す教育・保育の実践には、まだまだスキルを高める必要がある。今まででもそういった研修を進めてきたが、今後も続けたい。</p> <p>○公開保育を実施し、外部の方からご意見をいただいた。お褒めの言葉をいただいたが、課題も指摘していただき、先生方が指導力向上を目指すきっかけとなった。すべてB評定だが向上心の表れであると前向きに捉えたい。</p>
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	B	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	<p>○管理職や用務員も含め、保育環境の維持・改善に努めている。危険な個所があれば、すぐに管理者に報告する習慣はできており、修繕も素早く対応する様意識している。</p> <p>○トイレや各部屋の清掃はもちろん、遊具の定期的な消毒も意識していく。</p>
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	A	
食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	A	<p>○急がせず、たのしくゆったりとした食事介助を意識することが重要である。個人差もあり、適切に実践できるよう今後も注意していきたい。</p> <p>○園の畑で収穫した野菜は、できるだけその日のうちに調理して子ども達が食べられるようにしたい。子ども達は畑での作業を喜び、進んで水やりや草取りをする子もいる。畑で採れた野菜は、特段美味しいようだ。</p> <p>○給食担当者は、副園長と相談しながら行事に合わせたメニューを提供するよう努めている。子ども達は喜んで行事メニューを食べている様子がうかがえる。</p>
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	A	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	A	
障がい保育	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	B	<p>○保育課や北見市支援センターきらりと連携し、担任・管理職を中心に情報交換を行った。子どもの個性や特性に関する助言を受けることで、よりきめ細やかな関りを目指してきた。</p> <p>○保育教諭が対応に困難さを感じる状況においては、対応を協議し園全体として取り組んできた。課題がある場合は、担任だけではなく全職員が理解を深めながら教育・保育活動の充実を図っていく。</p>
	個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。	B	
健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	<p>○年間計画に基づいて避難訓練を毎月実施している。令和6年度も警察署員による交通安全指導を実施した。その指導をもとに、お散歩の際には、子ども達と安全な歩き方や交通ルールについて確認している。</p> <p>○子どもの体調変化にはどの職員も意識している。少しでも体調不良や微熱等の症状があれば、看護師や指導保育教諭で対応するようにしている。</p> <p>○重大事故が一番多いのは食事と午睡時であり、マニュアルを掲示するとともに、職員会議を通して意識付けをしている。</p>
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	A	
保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	A	<p>○保護者とのお便り帳の活用、送迎時の保護者との情報交換等を通して、園での様子を伝えながら言葉かけをしている。毎日のことであり、定着していると考える。</p> <p>○参観日や懇談会の活用はもちろんだが、子ども達の様子がわかる写真や記事を掲示し好評を得ている。保護者の悩み・苦しみに傾聴し支援できるよう、今後もそういった機会を意図的に作っていきたい。</p>
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保につとめている。	B	<p>○小学校との連携をより強化し、2月には年長クラスが南小学校の授業を参観してきた。また、地域の介護施設を訪問し、昼食をいただいていた。</p> <p>○きらり、市教委、保育課や保健師、場合によっては児童相談所との関係を一層密にしていきたい。</p>
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	A	

全体を通して	<p>○こども園としての自己評価は「Aの下」となった。昨年度ほぼ同様であるが、数値的には若干下回った。</p> <p>○相対的に良い結果ではあるが、子どもの発達に関する対応については、二項目とも昨年度を下回った。一人一人に寄り添った教育・保育を行うためには、専門的知識と経験が必要であるということを実感する場面が多くあった。子どもたちの個性や特性は、今後より一層多様化していくことが考えられることから、関係機関との連携や発達に関する研修機会を設け、個々のスキルを上げていかなければならない。</p> <p>○教育・保育の内容や指導方法については、各保育教諭が意欲をもって取り組んでおりその意欲を大切にしたい。よりよい教育・保育の提供に向けて、園の教育・保育目標のもと、散歩、リズム運動、園庭や屋外での遊び、プールや水遊び、そり遊び、栽培などの具体的実践を確実に進めていく。</p> <p>○特に注意を払い不適切な対応がないように心がけている。保護者との情報共有は、送迎時のお話やお便り帳で行っており保護者支援に繋がっていると考える。子どもの気持ちを受容し、一人一人に寄り添った教育・保育を実現するためには、行事等の活動や個人面談において保護者との連携をさらに密にし、教育・保育の質の向上に努めていく。</p> <p>○コロナの影響は減少したが、インフルエンザや胃腸炎等の感染症も含め、油断はできない。コロナ禍において取り組み始めた園内の消毒は当面継続する。</p> <p>○小学校との連携を強化している。参観日や各行事等での職員による相互訪問、小学校長を招いての公開保育、綿密な引継ぎ等を進めてきた。今年度は、2月に年長クラスが小学校を訪問し、教頭先生から「小学校とは」の説明を受けたり、1年生の授業を参観させていただいたりした。小学校には、みなみこども園出身の児童も多く楽しく有意義な時間となった。今後は、幼小連携強化の取組として「架け橋プログラム」を進める予定であり、すでに南小学校の力を借りて年間計画の作成に取り組んでいる。</p> <p>○地域連携という観点で、地域の介護施設との交流を継続している。令和6年度は、施設の要望もあり「こども食堂」と称して年長児の施設訪問に合わせて昼食のカレーライスをいただいた。介護施設に通うお年寄りと一緒に遊び、一緒に昼食を食べた。こういう機会を大切にし、地域のこども園としての活動を進めたい。</p>
--------	--

評価委員からの意見等	<p><自己評価の結果に関するご意見・ご質問></p> <p>○評価Bとなっている項目が多いがAでもよいのではないか。自分たちの取組に対して厳しい視点で評価する姿勢は素晴らしい。全体的に見てとてもよくやっていると思う。</p> <p>○園の行事では保護者の参加や協力が欠かせない。行事における取組の中で保護者同士の連携をより一層強めていければと考える。</p> <p>○現在のP戸数はどのくらいになるのか。行事への参加者が多いのは大変すばらしいことである。多くの家族が参加できるような雰囲気をもっと大切にしていきたい。</p> <p>○保護者支援においては、登園、降園時の保護者との立ち話やちょっとしたやり取りを大切にしているとのことだが、今後もそのような心掛けを大切にしていきたい。</p> <p>○障がい保育に関わっては、保護者が困り感を抱いているタイミングを逃さず、保護者の気持ちに寄り添った支援を大切にしていきたい。</p> <p>○鉄南地区で開催していた「鉄南わんぱく祭り」が廃止となったと聞いたがどのような祭りだったのか。最近、行事がなくなることが多いが、園で取り組んできた良い行事は是非残してほしい。餅つきに呼んでいただけることを大変楽しみにしている。</p> <p><公開保育の結果に関するご意見・ご質問></p> <p>○「リズム」は一人一人が楽しんで取り組んでおり素晴らしかった。幼児がここまでできるのかと感激した。</p> <p>○「リズムは」どのように指導しているのか。</p> <p>⇒まずは年長に指導し、年長が年中に、年中が年少に教えるといったように上から下に教えられるように指導している。日々の繰り返しによる効果が大きいと考える。</p> <p>○裸足での生活は、足裏の刺激による土部まの形成や運動能力の向上に効果的だと聞く。是非継続していただきたい。</p>
------------	---

